

2018年 琉大二次試験 小論文 講評

【人文社会学部】

○人間社会学科…『ぼくは君たちを憎まないことにした』という妻をテロで失った著者からのテロリストへのメッセージが課題文。そこから私達が生きる「現代社会とはどのような社会なのか。」・「そこで私達に求められていること」について述べさせる問題。世界がかかえるテロについて深刻なテーマであるが、受験生には難しいテーマだった。

○琉球アジア文化学科…設問形式、字数は例年通り。現代医療の基礎となっているバイオメディシン（生体医学）と対照的な従来の「伝統的医療」との比較が論じられている課題文を読み、論旨を六百字でまとめ、課題文中の傍線部について自分の意見を六百字で論述させた。課題文の内容は比較的分かり易く昨年より受験生には取り組み易かったと思われる。

【国際地域創造学部】

○国際地域創造学科（昼間主コース・夜間主コース）…「グローバリゼーション」に関する経済学分野の資料文を読み、問1は要約、問2で自分の考えを五百～六百字で論述させる問題であった。大学入試では頻出テーマであり、近年の国際状況に即した良問。新設学部・学科での出題であったが、傾向は旧総合社会システム学科の後期入試に似たものがあった。

【教育学部】学校教育教員養成課程

○中学校教育コース・社会科教育専修…資料文『耕す体とリズムとノイズー労働と身体』を読んで三問を答えさせる形式。例年通り分量の多い文章を時間内で読むのが受験生には大変である。特に問①については、資料文の内容について「論理構成」を図で説明させるという新しい形式があった。従来の形式を予想して準備してきた受験生には難問だったであろう。

○小学校教育コース・学校教育専攻…設問は三問。「差別」をテーマにした課題文を読ませ、答えさせた。問①・問②は比較的書けただろうが、問③は「本気で差別を考えることができるような文化」を小学校において創造するためにどのような教育が望ましいのかを自分の考えとして論じさせたが、日頃から「差別」について問題意識を持っていない受験生には難しかった。

(照屋真・山城司)